

田原迫ノ上遺跡って、どんな遺跡？

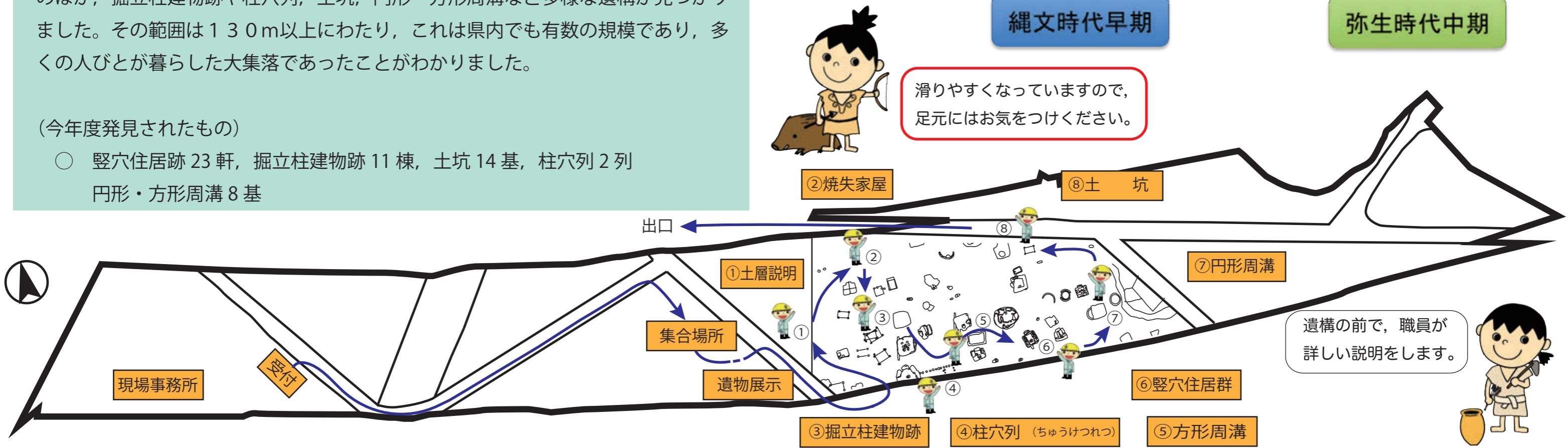
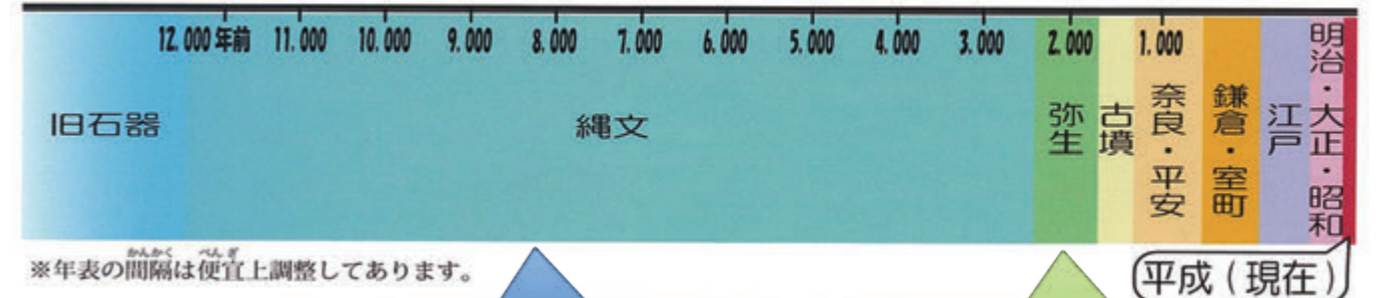
田原迫ノ上遺跡では、これまでの調査で、弥生時代中期（約 2,000 年前）と縄文時代早期（約 8,000～7,000 年前）のムラがみついています。

特に、今年度の調査で発掘された弥生時代のムラでは、規格性の高い竪穴住居跡のほか、掘立柱建物跡や柱穴列、土坑、円形・方形周溝など多様な遺構が見つかりました。その範囲は130m以上にわたり、これは県内でも有数の規模であり、多くの人びとが暮らした大集落であったことがわかりました。

(今年度発見されたもの)

- 竪穴住居跡 23 軒，掘立柱建物跡 11 棟，土坑 14 基，柱穴列 2 列
円形・方形周溝 8 基

田原迫ノ上で人々が生活した時代



滑りやすくなっていますので、足元にはお気をつけください。

遺構の前で、職員が詳しい説明をします。

どんな遺構が見つかったの？



竪穴住居跡



掘立柱建物跡



土坑



集石遺構

竪穴住居跡 (たてあなじゅうきょあと)

主に縄文時代から平安時代に見られる住居の一形式です。地面を長方形や円形等に数 10 cm～1 m ほど掘り下げた竪穴に屋根をかぶせる住居です。弥生時代～古墳時代には、多くの住居で中央または奥寄りに炉(ろ)がつくられています。

掘立柱建物跡 (ほったてばしらたてもものあと)

地面に柱穴を掘りこんで建てた建物跡です。

集石遺構 (しゅうせきいこう)

旧石器時代～縄文時代に発見される調理施設です。焼けた礫(れき)が1～2mの円形に集まったものです。石を焼きその熱で食物を蒸したものと考えられています。

どうして年代がわかるの？

火山灰が年代をはかるものさしになります。



弥生時代(竪穴住居跡)

池田降下軽石層 (約 5,700 年前)

アカホヤ火山灰層(約 6,400 年前)

縄文時代(集石遺構)

薩摩火山灰層 (約 11,500 年前)